
Sister Panic！！

春夏秋冬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Sister Panic!!

【Nコード】

N9706Y

【作者名】

春夏秋冬

【あらすじ】

俺、瀬川和樹は二人の妹と三人で平々凡々に暮らしていた。そこに海外で働く母から突然の電話。「近いうちに妹が三人そっちに行くから。」おっと全く話が見えないぞ？そうかこれは夢だな。夢の中での電話だったんだな。起きたらいつもどおりだ！オヤスミ！！起きたら妹が五人いました。なんか俺嫌われてるし！なんだこれ！？これからどうなるんだ！？

日常系コメディー中心です。

エピソード

プルプルプルルルル。

「はい、こちら瀬川ですけど。」

「お兄ちゃんのパンツは今何色かな？きやは」

ガチャ。

さーて、寝るかなあ。

プルプルプルルルル。

「もしもし？」

「もーつれないわねえ。その声は和樹ね。いつからそんなに冷たくなっちゃったの？お母さんさみしくて泣いちゃいそう…。」

「では何か？今日は純白のブリーフだよ！お母さんは！？とでも答えろと？俺は変態か！」

「心配しなくてもあなたは立派な変態よ。そこだけはお母さん譲れないわ。ちなみにパンツは穿いてないわ。」

「譲れ！！そこは俺の名誉のためにも全力で譲ってくれ！！そしてパンツを穿け！！」

「そんなことより、そっちはどう？ちゃんとやってる？」

「そんなことで片付けていい問題なのかは甚だ疑問だが、まあ問題なくやってるよ。」

「成績も？」

「失礼。訂正させてもらおう。成績以外は問題なくやってます。」

「その点は今度帰ったときにじっくり聞くとして、千夏達は元気？」
しまった。自ら地雷を踏んでしまった。

「お手柔らかにお願いします。あゝ千夏も愛菜も相変わらずだよ。
ちゃんと元気にやってる。掃除、洗濯その他もろもろもしっかり分
担してやってるよ。」

「さすが和樹ね。お母さんの聞きたいこと全部理解してるなんて。
感動で服を脱いじゃいそう。」

「俺は母さんが全く理解できないよ。で？本題は何？何か言いたい
ことがあったんでしょ？」

「あら気付いてたの？驚いてお母さんブラが取れたわ。やるわね和
樹。」

「なんだ！？それどんな状況だ！？俺にはさっぱり理解できない！

「！」

「冗談よ。じゃあ本題に入るわね。ちょっと聞いてる？」

「母さんの冗談は冗談に聞こえない…。で、何？」

「近いうちに妹が三人そっちに行くわ。」

おっと、急に話が見えなくなったぞ？

「ごめん、母さん。もう一度言ってくれる？」

「もう！あんたはついに日本語まで聞き取れなくなってしまったの？あなたの国語のテストの点が心配だわ。さては一桁ね。」

「うるさいな！ギリギリ二桁はあったよ！で、なんて!？」

「ギリギリ!？今、アンタギリギリって言った!？」

え〜い！やかましいやつだ！

「そんなことは今は問題じゃないだろ！妹が三人ってどういふこと

だよ！俺には妹は二人しかいないはずだし、その二人は今自分の部屋で寝てるはずだ！なんだ！？分裂したのか！？スモール○ールのように！？」

「保護者としては大問題なんだけどね…。まあいいわ。とりあえず、新しい妹が三人そっちに向かってるから、詳しくはその子達に聞いて。ちゃんと優しくしてあげなさいよ。これから家族になるんだから。じゃ。」

ガチャ。

「えっ！？ちよつと！？母さん？母さん！？」

ツーツー。

「切れた…。」

『妹が三人そっちに向かってるから。』か……。

「全くもって意味不明だ…。」

そのつぶやきは誰に聞こえることもなく、漆黒の闇に吸い込まれるように消えていった。

第一話 出会い

シリシリシリシリシリシリ。

ベシー！

「ん．．．朝か．．．。」

うゝん、なんか変な夢を見たような気がするなあ。妹が三人増えるとか何の冗談だよ。ただでさえ二人で大変なのに三人も増えたらこの家は崩壊しちまうぞ。

そんなことを思いながら階段を下り、リビングに出る。

「あれ？風呂場の電気が点いてる？」

昨日消し忘れたか？まあいいや。

ガチャ。

「えっ？」

目の前に全く知らないタオル一枚の少女が現れた。さてどうする？

1、謝る。

2、見なかったことにする。

3、ごまかす。

4、逃げる。

↑ピッ。

「失礼、間違えました。」

ガチャ。

「きやあああああああああああああああ！！！」

「うわあああああああああああああ！！！」

ち、小さい肉まんが！！肉まんが二つ！！ええい！離れる俺の煩惱！なんだ？どういうことだ！？あれは一体誰なんだ！？

「何事だ！？兄ちゃん！！！」

「どうしたの！？お兄ちゃん！！！」

「佳奈！何があったの！？」

「……………」

更に二人増えました。

[illegible]

「つまりどういふことなのかな？」

「私達三人はあなた達と兄妹になりました。」

うむ。全く話が見えてこない。

ちよつと整理しよう。今俺達は三人ずつ二つのソファアに座つて向かい合っている。よしここまでいい。

まず俺が座っているほうのソファーは、中心が俺。左が妹の愛菜。右も同じく妹の千夏。千夏が着ているものが俺のＴシャツと自分のパンツだけということを除けばこれもよし。

続いて対面、妹を名乗る謎の三人組。中心に雅と名乗る少女。左に先ほどの貧乳少女、名前は佳奈とか。右には、優希と言われている少女がちよこんと座っている。ちなみに全然しゃべらない。まあとりあえずはよし。

問題はこの三人がいきなり『妹です』とか言つて現れたことだ。うん、どういふことだ？もしかして隠し子？生き別れの妹。いやい

やそれはない。そもそも父さんは愛菜が産まれる前に死んだからなあ。

「すいません、面白い顔しているとこ申し訳ないんですが．．。」

「してない！面白い顔なんてした覚えは一ミリたりとも存在しない！！」

「す、すいません。あまりにお顔の調子がよろしくなさそうだったので、つい．．。」

遠まわしにすごく馬鹿にされてる気がするのには気のせいだろうか．．。

「おい！兄ちゃんは面白い顔なんてしてねーぞ！」

おっ！千夏！兄ちゃんを庇ってくれるか！なんて心の優しい子なんだ。兄ちゃん感動で涙が出そうだよ．．。

「兄ちゃんの顔はいつもブサイクだ！！」

「お、お兄ちゃん！？すごい勢いで目から水が溢れ出てきてるけど

大丈夫!？」

ほっといてくれ!!俺はどうせブサイクだ!!

「すみません……。私が変なことを言っただけに……。」

「ああ……」本当のことだから、気にすんなよ。」「

ボカツ!!

「いってー!!何すんだよ兄ちゃん!!」

「お前はもうしゃべるな!」

話が進まん!!そんなことよりも……。

「一体どういことなんだ?いきなり妹になりましたって言われても、こっちは何がなんだか……。」

「瑠璃さん……お母様から何か聞いていませんか?」

母さん？母さんが何かって・・・ま！まさか！！

「も、もしかして、妹が三人向かってるっていうあのコトか！..」

「よかった。ちゃんと伝わっていたんですね。」

「あ、ああ。」

あ、あれは夢じゃなかったのか。寝ぼけててつい夢の話だとばかり
..。

「兄ちゃん、妹ってどういうことだ？」

となりの千夏が聞いてくる。ん？なんだ？ちょっと怒ってる？

「お兄ちゃん・・・。どういうこと？」

「おわあ！？」

愛菜が切れてる！顔は笑ってるけど、心が全く笑ってない！！超怖

い！

「お、お兄ちゃんにもよく分からないんだ！ み、雅さん！ せ、説明をお願いします！！」

「分かりました、私達がなぜこのようなことになったかご説明します。それははるか昔、王国が．．．」

「な、なるべく、手短にお願ひします！できれば俺が殺される前に――！」

[illegible]

三十分後。

「つまり、祖父が亡くなって引き取り手が無くなって困っていたところを母さんがどうにかしたと？」

「要約するとそういうことになります。」

「明らかに初めの25分はいらなかったよね？王国がどうか．．．」

「な、何言っただよ、ぐすつ．．．なんて悲しい話なんだ．．．ひつく。こんな悲しい話で泣かないなんて兄ちゃん人間じゃない！！」

ひどい言われようだ。

「とりあえず、経緯は理解しました。まあこっちとしては、驚いただけで別に追いつ返そうとしてたわけではないし、母さんが決めたなら文句はないよ。な？千夏、愛菜？」

「おう！」

「うん！」

「ありがとうございます！それじゃあとこれからよろしくお願いしますね。ほら、優希も佳奈もあいさつして。」

「．．．．．ん。」

優希と呼ばれた子が顔を上げて俺の方にトコトコ歩いてくる。な、なんだ！？

「．．．．．優しい匂いがする。．．．．．お日様の
匂い。．．．．．すう」

そういつて俺の膝の上に乗って寝てしまった。

お日様の匂い？ちゃんと洗濯したはずだけだな．．。

「ふふつ。優希ったらもう和樹さんのこと好きになっちゃったみたいね。」

「はあ．．．．．」

よく分からないことを言われたがとりあえず悪感情ではなさそうなので良しとしとこう。

「むう．．。」

「．．。」

両隣から発せられる凶悪なオーラについては気付かなかったことにしておこう。ってかなんで怒ってたんだ？

パンツ！！

「ちょっとアンタ！！」

いきなり、立ち上がって俺を睨みつけるミニ肉まん。もとい佳奈。

「聞いてんの！？アンタよ！アンタ！無視するんじゃないわよ！」

なにやらずいぶん虫の居所が悪い様子。ここは一つ落ち着いて対処しよう。

「まあ落ち着け。我が妹よ。」

「だ・れ・が・妹じゃー！！！！」

「うわぁー！！」

フォ、フォークが飛んできた！！俺の眉間めがけて！！こ、こいつ！出会ったその日に兄貴を冥土に送るつもりか！危険すぎる！

「な、何するんだ！？いきなり危ないだろ！！」

「うるさい！あんた私に何か一言ないわけ！？人の、そ、その！・・
は、裸見といて！何か言うことはないわけ！？」

どうやらこの娘っ子は、裸を見られたことを気にしているようだ。
といっても実際はタオルで見えてないんだけどな・・・。

まあでもこのお年頃の女の子はこういうことに敏感だからな。こころ
は一つ大人の余裕というやつを見せてやろう。

「いいか？よく聞け。佳奈よ。」

「な、何よ！？」

「女の魅力は胸じゃない・・・・・・・・・・うなじだ！！」

ボゴォ！！

「ぐっはあ！！」

「ねえ。お姉ちゃん、この人殴っていい？」

「落ち着いて、佳奈。あなたはすでに殴っているわ。」

「くっ！マニアックすぎたか！」

「お兄ちゃん、そういう問題じゃないよ・・・。」

ああ・・・これから俺はやっていけるのだろうか・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9706y/>

Sister Panic！！

2011年11月29日17時54分発行